

来賓挨拶

## 運命共同体の認識を共有せよ



大韓民国特命全権大使

ラ・ジョンイル

赴任して以来さまざまな大学を訪問しましたが、今回はじめて早稲田大

学を訪問する機会を設けてくださいました主催者側に感謝申し上げます。

特に理由がありまして、70年位前に父が早稲田大学に通っていましたが、1年ぐらしか通うことができませんでした。その理由は独立運動をして警察に捕まえられたためです。そのために早稲田大学は私にとって特に何か因縁のあるような大学に思えるのです。

今日のシンポジウムは「東アジア調和社会の構築」また、「日中韓の政策対話」について話し合うというテーマですので、とりわけ父の思い入れが大きい気がします。

敬愛する朱建榮・日本華人教授会議代表ならびに会員の皆様、松田岩男・内閣府特命担当大臣、王毅・中華人民共和国特命全権大使ならびにご来賓の皆様、また、シンポジウムに参加されている皆様、まず、日本華人教授会議が創立三周年を迎えられたことに対しまして、深深たるお慶びの言葉を申し上げます。ならびに日中韓の国際シンポジウム開催のためにご尽力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

日中韓は同じ漢字文化圏であり、三国の文化はそれぞれ特徴があるものの、根本的には互いの交流を基にして成し遂げられたものだと考えています。三国は長い間、実際には文化的な共同体を構成してまいりました。最近の日中韓三国のさまざまな統計は、この地域の規模が拡大し、相互依存関係がより緊密化されていることを表しています。三国全体のGDPは2004年世界全体の17%、貿易規模は世界貿易量の15%を占めており、三国間の域内貿易が三国

全体貿易に占める割合は、1990年の12.3%から、2004年には23.9%へと大きく増加しました。対外貿易において相手国が占める割合も、それぞれ一位と二位を争っています。

人の交流も着々と進み、1993年の約380万人から2004年には1000万人を超過するようになりました。このような現象はすでに三国間の新たな共同体形成に向けた求心力として作用し始めたといっても過言ではありません。三国がそれぞれ直面しているあらゆる社会問題も、三国間の協力を促す要因として作用すると思います。

本日のシンポジウムのテーマとも関連がありますが、環境にやさしい経済発展や高齢化社会問題などで、政府あるいは民間レベルで互いの経験を共有するシステムをつくる必要性が高まっています。このような中、日中韓三国の政府は交流協力をさらに拡大させるための制度的な枠組みをつくるために、さまざまなレベルにおいて対話を深めております。

しかし、この地域には関係の更なる発展を阻害する要因が常に存在しています。皆様ご存じのように日中韓三国は不幸な過去の歴史についての認識の共有が十分に行われていません。行動として現れない過去に対する反省の表明、責任のある政治家の周辺国に対する配慮を欠いた言動などはむしろ信頼を毀損し、せつかくの協力関係の基盤を損傷させる可能性があることを懸念しております。

欧州各国が歴史的経験を乗り越え経済統合を成し遂げたように、日中韓三国がお互いに運命共同体であるという認識を基に、相異なる認識を克服できることを期待しています。本日の会議がこの面での発展に貢献できることを心から望んでおります。